

方針	施策の方向性	対象の事業・施策	5年間（2020-2024年）の取組内容	取組みに対する評価（現状・課題）	今後の取組みに向けたキーワード ※事前課題シート作成の参考にしてください	
つどう	すべての区民が学び合い集える機会を拡充・整備する	多様な学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> 区内7大学と協働してとしまコミュニティ大学を開催（70回・2,199名/年） NPO法人いけぶくろ大明と協働して若者対象の事業（ブックカフェ）を展開（94回・2,344名/年） 地域文化創造館の文化カレッジで教養文化や趣味実技に関する講座を展開（162回・3,419名/年） 長期的視点でのリーダー養成のため青少年育成事業を展開（8回・30名/年） 日本語教室の学習支援（458回・6,204名/年） としまコミュニティ大学及びブックカフェでオンライン講座を開催 放課後こども教室（1,255回・16,323名/年） 部活動の地域移行を検討 ブックカフェで小学生の放課後の居場所づくり開始（毎週水曜日） 知的障害者学習支援（14回・50名） 	<p>としまコミュニティ大学マナビト生の平均年齢は70代である。</p> <p>孤独・孤立を感じている人の割合は、男性では30代・40代、女性では20代が高い（孤独・孤立の実態把握に関する全国調査）。</p> <p>ブックカフェの利用者は30代、40代の男性が多く、若者の女性が少ない。</p> <p>「家庭教育に対する支援が充実している」と回答する子育て中の女性の割合が低い（4割程度）</p> <p>豊島区の外国人人口は年々増加し続けており、日本語教室の需要が高い。（外国人人口3万2千人、比率11.2%）</p> <p>子ども向けの日本語教室が少なく、放課後子ども教室でも外国籍児童への対応が求められている。</p> <p>オンライン講座の配信の技術がある人材が不足している。</p> <p>左記の事業については連携や協働して実施されているので、今後の社会情勢に対応しながら官民問わず連携・協働を強めていく。子どもや若者をはじめ年齢にも関わらず、日本語を母国語とする・しないに関わらず、誰もが学びに触れられるよう、学びの場を整備する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メンターゲートである若年層に向けた学習支援の強化 ・20～30代のボランティアスタッフを配置するなど、若者が集いやすい雰囲気づくり ・多世代交流 ・多文化理解 ・日本語教室の充実 ・最新のデジタル技術やリモート学習ツールの活用 ・学習相談の充実のための工夫 	
		活動拠点の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化創造館 みらい館大明 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学びの場として、生涯学習団体等に学習活動ができる場(貸室)を提供 地域文化創造館利用率（4館平均50%）、みらい館大明利用率（51%） 各館の文化祭やロビー展示などで、生涯学習団体の学習成果の発表の機会を担保 地域文化創造館の文化カレッジで教養文化や趣味実技に関する講座を展開（162回・3,419名/年） みらい館大明では地域に向けた生涯学習講座を展開 	<p>館利用率50%と空き会議室が多くあり、生涯学習団体数は減少傾向にある。</p> <p>新規の講座受講者がどの程度いるかなど調査が行えておらず、特定の団体が利用する施設となっている懸念がある。</p> <p>文化祭は館利用者からのみ出展。舞台発表団体のみ5館合同での発表を実施している。</p> <p>学びの成果を地域に還元し共有する取り組みが薄い。</p> <p>より地域に開かれた施設にするとともに、多様な主体との連携による魅力的な講座展開を行うことで、生涯学習の拠点として機能強化が求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層も魅力的と感じる講座内容 ・学習者のニーズ調査と講座に反映させる仕組み構築 ・地域文化創造館の魅力が伝わるパンフレットの作成 ・個人利用の受け入れ ・子どもや若年層の自習の場 ・館を超えた文化祭の開催 ・連携、協働の事例を共有する仕組み
		地域の人材発見とその力を生かす機会の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化創造館（文化カレッジ・文化祭・ロビー展示） 日曜教室 生涯学習保育者 としま人材バンク としま出前講座 	<ul style="list-style-type: none"> 文化カレッジにおける地域講師の活用 各館の文化祭やロビー展示などで、生涯学習団体の学習成果の発表の場を担保 ボランティアスタッフと協働による日曜教室事業の運営 区や区民が実施する事業に保育者を派遣し、乳幼児を持つ学習者を支援（保育者登録数35人、148回派遣） 区民の生涯学習支援のための講師登録（登録者50名） としま出前講座では、区政・地域問題の学習会を開催する区民グループに講師を派遣（56講座のプログラム） 	<p>文化カレッジの地域講師、日曜教室のボランティアスタッフともに人材が固定されており高齢化している。</p> <p>学習の成果を発表できる機会や学習成果を地域に還元できる場合は一定数担保されているが、学んだ成果を生かしたいと思っている人と生かせる場をマッチングする仕組みがない。</p> <p>学習相談の場を活用したつなぐ仕組みが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行 ・人材バンクと出前講座の融合 ・日曜教室の1年間の学びの成果を発表する場の創出
		地域資源の発見と活用	<ul style="list-style-type: none"> エリアガイドボランティア マナビトゼミ（自然観察会） 	<ul style="list-style-type: none"> 「雑司が谷」「大塚」「巣鴨・駒込」「長崎」の4地域で、としま案内人ボランティアガイドが活動し、地域資源の掘り起こしをしている。 4団体の横の連携を目的として、情報交換会を年2回実施している。 マナビトゼミの有志が、雑司が谷を中心に年10回自然観察を行い、そこで得た結果を環境政策課が実施する「としま生きものさがし」に提供している。 	<p>好事例を他の施設に広める仕組みがない。エリアガイドボランティアの取組以外に学んだ知識を広めていく場が少ない。</p> <p>地域文化創造館では長崎獅子舞など歴史的文化資源の継承のための講座を行っているが、文化を継承していくための取り組み例が少ない。</p> <p>横の連携を図りながら地域理解を深める講座を引き続き展開していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への愛着を育み家族世帯の定住を促すための「地域ブランディング」の発信
つながる	つながりやを生まる相がたのこす学習情報発信の仕組みを充実させる	つながりやを生まる相がたのこす学習情報発信の仕組みを充実させる	<ul style="list-style-type: none"> としまコミュニティ大学マナビト生 地域文化創造館の生涯学習団体支援 日本語教室 	<ul style="list-style-type: none"> マナビト生がとしまコミュニティ大学での学びと他課の事業を結びつけ、両者の学びを発表しあった。 各地域文化創造館が生涯学習団体同士を繋げるため、団体と協力しながら文化祭やロビー展示を実施。 地域文化創造館の文化カレッジの中で、団体支援講座として生涯学習団体活動が活性化されるように団体が講師となる講座を行ったり、ロビー展示や会員募集などを実施したりしている。 区は日本語学習希望者に日本語教室の紹介をし繋げている。また、後援する学習院大学では「としま日本語ネットワーク会議」を開催し、活動と活動を繋げている。 	<p>生涯学習活動を行う団体に対して、後援や共催などの仕組みをつかって支援ができていない部分はあるが、限られている。</p> <p>生涯学習についての情報発信、広報活動が連鎖的になるような仕組みがなければならぬ印象が強く情報を探しにくい。</p> <p>各団体をつなげる働きかけが弱い。</p> <p>他分野の学びの情報を、生涯学習・社会教育専門職がコーディネートしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層をターゲットにした広報活動 ・生涯学習講座等の案内の一元化 ・学習の成果を生かすコーディネート機能の強化
		区民による学習相談体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 若者学びあい事業（ブックカフェ） としまコミュニティ大学 	<ul style="list-style-type: none"> ブックカフェに4人のコーディネーターを配置し、それぞれの得意分野を生かした企画を実施 としまコミュニティ大学の講座において、受講生同士が学びを助けあっている。 	<p>交流できる場や、学んだ成果を生かせる場をコーディネートする人材が不足している。</p> <p>ブックカフェにおいて、利用者の「やりたい」に対してコーディネーターの手が回っていない。</p> <p>学んだ成果を生かして活動する区民の割合が低い（7.7%）。</p> <p>ブックカフェのコーディネーターは配置されていることや、としまコミュニティ大学での学びの助け合いは行われているが、生涯学習全体を網羅できるようなコーディネーターは配置できていないため、広い視野で人や事業をつなぐことができる人材の育成や配置が求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の成果を生かすコーディネート機能の強化
		多様な主体がつながる機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学習ネットワーク交流会 としまコミュニティ大学の協働 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習に係る多様な主体による集まり（学習ネットワーク交流会）を2回開催後、廃止。 としまコミュニティ大学とエリアガイドボランティアのコラボ講座開催 	<p>としまコミュニティ大学等の特定のメンバーが集う場はあるが、多様な主体による垣根を超えた交流をできる場がないことと、つながり合うことが難しい。</p> <p>特定のメンバーだけではなく様々な立場の主体が集まるような学習ネットワーク交流会のような事業を開催形態を工夫しながら復活させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の発掘…人材バンク登録者の活用、スポーツ推進委員の活用 ・大学や専門学校と連携して新しい学習支援者の発掘
		活動施設の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化創造館 みらい館大明 	<ul style="list-style-type: none"> イケサンパークの協力で、ぶらりU-30のまち歩き講座等を実施。 千早地域文化創造館では、文化カレッジ開催時に隣接する千早図書館で関連する図書展示を行ってもったり、ジャンプ長崎と音楽講座や長崎獅子舞などで連携したり、千早小学校の授業の一環としてエリアガイドボランティアを派遣したり、明豊中学校の生徒に文化祭のポスターを書いてもらったり、区立小中学校の教員研修の受け入れを行ったりしている。 雑司が谷地域文化創造館では地域の伝統行事である「お会式」に関する講座を実施 ・巣鴨地域文化創造館では、大正大学と連携して文化カレッジを実施。 みらい館大明ブックカフェでは、池袋図書館と連携してビブリオバトル等の事業を実施したり、すずらんスマイルプロジェクトと連携したわたカフェ（ブランインターナショナル）の実施などを行っている。 	<p>地域文化創造館では、好事例を他館に共有する機会が少ない。</p> <p>地域や学校等、公民間問わずの多様な主体との連携による事業展開が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育士等の有資格者を施設に配置
つくりだす	新しい文化や価値の創出を担う地域の人材育成と仕組みづくり	学習ネットワークの充実	<ul style="list-style-type: none"> 学習ネットワーク交流会 	<ul style="list-style-type: none"> としまコミュニティ大学において、学びの成果の発表と交流できる場を設定。 	<p>としまコミュニティ大学等の特定のメンバーが集う場はあるが、多様な主体による垣根を超えた交流をできる場がないことと、繋がりが合うことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の成果を生かすコーディネート機能の強化
		学びあいの成果を生かした協働のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> としまコミュニティ大学マナビト生の活動（町会、区民ひろば、フレイルサポーター等） エリアガイドボランティア としまコミュニティ大学の協働 日曜教室出前講座 	<ul style="list-style-type: none"> 『図書館通信』（図書館課年4回発行）佐藤ゼミの成果 「としま生きものさがし」（環境政策課）マナビト生が声かけをして生きものさがしに協力、マナビト生自主グループによる自然観察会の実施 マナビト生の講座運営協力 としまコミュニティ大学から生まれたおてだまグループの活動（地域の高齢者施設でのボランティア活動、ファーマーズマーケット） としまコミュニティ大学とエリアガイドボランティアのコラボ講座開催 大塚製薬と協働して日曜教室で熱中症出前講座を実施 日本語サークルコンニチワの参加者がブックカフェを利用するなかで、ブックカフェのイベントに参加する様子がみられ、イベント内で交流がみられる。 マナビト生の個別の活動 	<p>協働の視点を持ちながら、事業を行っているが、まちづくりという大きなゴールを見据えた事業にはなっていない部分がある。</p> <p>また、講座参加者にそのような働きかけが十分にできていない状況もある。</p> <p>事業にかかわる職員が、協働の視点をより強く持ち、参加者に自分たちの活動が結果としてまちづくりに繋がっていることを意識できるような振り返りの機会を持つよう努める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の成果を生かすコーディネート機能の強化 ・評価アンケートを活用し次の事業に生かす仕組みをつくる ・学んだことを地域に還元するために意識醸成する
		新しい文化や価値の創出を担う地域の人材育成と仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 外国人、LGBT等の新しい考えに対する生涯学習 ブックカフェ サードプレイス 	<ul style="list-style-type: none"> としまコミュニティ大学にて多文化理解の講座を開催 利用者とのやりとりから、新しい企画が生まれている。（ガンブラ、人狼会、読書会参加者からの企画提案） ブックカフェにおいて、「とことこ」、「職場とセクシュアリティ」など、LGBTに造詣の深いコーディネーターを中心に、当事者やAlly向けの企画が定期的に継続実施されている。 ブックカフェをサードプレイスとして、第2の家のように利用している常連が数人いる。 としまコミュニティ大学のマナビトゼミ(社ゼミ)では、外国籍の方との相互理解のためにどうしたらいいかを議論、探求する場を担保し、実際に外国籍の方とやり取りをする場も設け、よりよいまちづくりに寄与しようとしている。 としまコミュニティ大学で多文化理解について学んだ方が、地域の外国籍の方との交流の場に参加した。 生涯学習指導員や社会教育指導員を区民の学びを支える学習・スポーツ課や放課後対策課に13名配置している。 	<p>時代に即した学びの機会はある程度担保できているが、5年後を見据えた新しい学びの機会を広げていく必要がある。</p> <p>意識調査において、「地域で学んだことを生かして活動している」と回答する人が7.7%に留まっている。</p> <p>生涯学習・社会教育専門職の研修体制が確立されておらず、知識と経験の積み上げによる力量に差がある。</p> <p>社会教育人材の養成、社会教育主事や社会教育士の役割・位置づけの明確化について審議されている（令和6年6月25日中教審諮問）</p> <p>としまコミュニティ大学マナビト生向けの佐藤ゼミや社ゼミ、ブックカフェのLGBT関連事業では、議論しあひ探求できる場が実現できているが、学びの循環（わ）を広げるために他の分野でも議論や探求できる場や仕組みづくりが必要である。</p> <p>そのために、社会教育士をはじめ、地域の学びを支える人材のネットワーク化、互いに能力を高めあうための仕組みを構築することが求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援者が好事例や失敗談を互いに紹介しあう成果発表会を実施する ・学習支援者の研修体制の充実 ・学習支援者がネットワークを広げることで、新たな学びの場を創出する